

理学療法士作業療法士 国家試験出題基準

令和6年版

厚生労働省医政局医事課

目 次

理学療法士作業療法士国家試験出題基準の概要	i
医道審議会理学療法士作業療法士分科会 理学療法士作業療法士国家試験出題基準作成部会委員名簿	ii
理学療法士作業療法士国家試験出題基準の利用法	iii
出題基準と試験科目の対応表(理学療法士国家試験)	iv
出題基準と試験科目の対応表(作業療法士国家試験)	v
専門基礎分野	
I 人体の構造と機能及び心身の発達	2
II 疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	5
III 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	11
専門分野(理学療法)	
I 基礎理学療法学	14
II 理学療法管理学	17
III 理学療法評価学	18
IV 理学療法治療学	23
V 地域理学療法学	28
VI 臨床実習	30
専門分野(作業療法)	
I 基礎作業療法学	34
II 作業療法管理学	36
III 作業療法評価学	38
IV 作業療法治療学	44
V 地域作業療法学	49
VI 臨床実習	51

理学療法士作業療法士国家試験出題基準の概要

1 経緯

平成11年4月、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正によって、教育カリキュラムが大綱化されたことに伴い、国家試験出題基準が作成されることになり、平成12年9月に医療関係者審議会理学療法士作業療法士部会の下に理学療法士・作業療法士国家試験出題基準作成委員会が設置され、審議が開始された。その後、審議会の改組を経て、平成13年4月に平成14年版、平成26年9月に平成28年版国家試験出題基準が取りまとめられた。以来、教育・医療を取り巻く状況及び医療水準を踏まえて改定され、国家試験問題の作成に活用されている。

平成29年12月に理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラム等改善検討会報告書が取りまとめられ、令和2年4月に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が改正される等、現行の教育及び医療水準にも変化がみられることを踏まえ、令和3年4月、医道審議会理学療法士作業療法士分科会の下に理学療法士作業療法士国家試験出題基準作成部会が設置され、現行の理学療法士作業療法士国家試験出題基準をより理学療法士・作業療法士国家試験の現状に適合するものにすることを目標に審議が行われた結果、今般、出題基準の改定が取りまとめられたものである。

なお、今般の理学療法士・作業療法士国家試験出題基準は、令和6年の理学療法士・作業療法士国家試験から適用される。

2 委員

別紙

3 会議開催状況

第1回	令和3年	8月31日(火)
第2回		10月4日(月)
第3回		11月10日(水)
第4回		12月21日(火)
第5回	令和4年	1月28日(金)

医道審議会理学療法士作業療法士分科会
理学療法士作業療法士国家試験出題基準作成部会委員名簿（五十音順）

◎は部会長、○は副部会長

- 浅見 豊子 佐賀大学医学部附属病院リハビリテーション科 教授
- 池田 由美 東京都立大学健康福祉学部 教授
- 出江 紳一 東北大学大学院 医工学研究科長
- 内山 靖 名古屋大学大学院医学系研究科
予防・リハビリテーション科学創生理学療法学専攻 教授
- 大庭 潤平 神戸学院大学総合リハビリテーション学部作業療法学科 教授
- ◎ 才藤 栄一 藤田医科大学 最高顧問
- 佐伯 覚 産業医科大学リハビリテーション医学講座 教授
- 西田 裕介 国際医療福祉大学医学部・成田看護学部・成田保健医療学部 教授
- 花山 耕三 川崎医科大学リハビリテーション医学教室 教授
- 原口 健三 西九州大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科 教授
- 淵岡 聡 大阪府立大学地域保健学域総合リハビリテーション学類 教授
- 峰 ひろみ 東京都立大学法科大学院 教授
- 宮口 英樹 広島大学大学院医系科学研究科 教授
- 山崎 せつ子 兵庫医療大学 名誉教授

理学療法士作業療法士国家試験出題基準の利用法

理学療法士国家試験又は作業療法士国家試験は、理学療法士及び作業療法士法第9条に基づき「理学療法士又は作業療法士として必要な知識及び技能について」行われる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、理学療法士作業療法士国家試験出題基準である。理学療法士・作業療法士国家試験の妥当な範囲と適切なレベルを確保するため、理学療法士作業療法士試験委員はこの基準に拠って出題する。

なお、当該出題基準は学校養成施設の卒業前の教育で扱われる内容の全てを網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するものではない。

利用者は以下の項目ごとの分類に従う。

1. 見出し（タイトル）、大項目、中項目、小項目に分類する。

- (1) 見出し（タイトル）は理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定める教育内容とする。
- (2) 大項目は中項目を束ねる見出しとする。
- (3) 中項目は、理学療法士・作業療法士国家試験の出題範囲とする。
- (4) 小項目には、中項目の内容を例示する。
 - ①中項目に関連する主たる項目範囲を示す。
 - ②標準的な学生用教科書に記載されている程度の内容は出題範囲となる。

2. その他

() : 直前の語の説明

例：保存的治療（牽引療法を含む）、体性感覚（表在感覚、深部感覚）

< > : 直前の語の言い換え

例：日常生活活動〈ADL〉、QOL〈quality of life〉

出題基準と試験科目の対応表（理学療法士国家試験）

見出し（タイトル）	大項目	試験科目※
I. 人体の構造と機能及び心身の発達	1. 解剖学 2. 生理学 3. 運動学 4. 人間発達学	解剖学 生理学 運動学 臨医、心理
II. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	1. 医学概論 2. 病理学概論 3. 臨床医学総論 4. リハビリテーション医学 5. 臨床心理学 6. 精神障害と臨床医学 7. 骨関節障害と臨床医学 8. 慢性疼痛と臨床医学 9. 中枢神経の障害と臨床医学 10. 末梢神経・筋の障害と臨床医学 11. 小児の障害と臨床医学 12. 内部障害と臨床医学 13. がん関連障害と臨床医学 14. 老年期障害と臨床医学 15. その他の障害と臨床医学	臨医、リハ 病理 臨医、病理 臨医、リハ 心理 臨医、心理、リハ 臨医、病理、リハ
III. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	1. 保健医療福祉 2. リハビリテーション概論	臨医、心理、リハ

※表中の略語はそれぞれ以下の試験科目を示す。

臨医…臨床医学大要（人間発達学を含む）、病理…病理学概論、心理…臨床心理学、

リハ…リハビリテーション医学（リハビリテーション概論を含む）

見出し（タイトル）	大項目	試験科目
I. 基礎理学療法学	1. 理学療法の基本 2. 理学療法の範囲 3. 理学療法学の基礎	理学療法
II. 理学療法管理学	1. 職業倫理 2. 職場管理 3. 教育 4. 法規・関連制度	
III. 理学療法評価学	1. 目的 2. 時期と手順 3. 心身機能、身体構造 4. 基本動作 5. 活動、参加 6. 背景因子等 7. 義肢、装具、支援機器、自助具等 8. 疾患、障害 9. 保健、予防	
IV. 理学療法治療学	1. 基礎 2. 運動療法 3. 物理療法 4. 義肢、装具、支援機器、自助具等 5. 心身機能、身体構造 6. 基本動作 7. 活動、参加 8. 背景因子等 9. 疾患、障害 10. 保健、予防	
V. 地域理学療法学	1. 基礎 2. 評価と支援 3. 安全管理	
VI. 臨床実習	1. 実習前準備 2. 医療提供施設実習実施内容 3. 地域実習実施内容 4. 実習後評価	

出題基準と試験科目の対応表（作業療法士国家試験）

見出し（タイトル）	大項目	試験科目※
I. 人体の構造と機能及び心身の発達	1. 解剖学 2. 生理学 3. 運動学 4. 人間発達学	解剖学 生理学 運動学 臨医、心理
II. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	1. 医学概論 2. 病理学概論 3. 臨床医学総論 4. リハビリテーション医学 5. 臨床心理学 6. 精神障害と臨床医学 7. 骨関節障害と臨床医学 8. 慢性疼痛と臨床医学 9. 中枢神経の障害と臨床医学 10. 末梢神経・筋の障害と臨床医学 11. 小児の障害と臨床医学 12. 内部障害と臨床医学 13. がん関連障害と臨床医学 14. 老年期障害と臨床医学 15. その他の障害と臨床医学	臨医、リハ 病理 臨医、病理 臨医、リハ 心理 臨医、心理、リハ 臨医、病理、リハ
III. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	1. 保健医療福祉 2. リハビリテーション概論	臨医、心理、リハ

※表中の略語はそれぞれ以下の試験科目を示す。

臨医…臨床医学大要（人間発達学を含む）、病理…病理学概論、心理…臨床心理学、

リハ…リハビリテーション医学（リハビリテーション概論を含む）

見出し（タイトル）	大項目	試験科目
I. 基礎作業療法学	1. 作業療法の基本 2. 作業療法の範囲 3. 作業療法学の基礎	作業療法
II. 作業療法管理学	1. 職業倫理 2. 職場管理 3. 教育 4. 法規・関連制度	
III. 作業療法評価学	1. 目的 2. 時期と手順 3. 心身機能、身体構造 4. 基本動作 5. 活動、参加 6. 背景因子等 7. 義肢、装具、支援機器、自助具等 8. 疾患、障害 9. 保健、予防	
IV. 作業療法治療学	1. 基礎 2. 心身機能、身体構造 3. 基本動作 4. 活動、参加 5. 背景因子等 6. 義肢、装具、支援機器、自助具等 7. 疾患、障害 8. 保健、予防	
V. 地域作業療法学	1. 基礎 2. 評価と支援 3. 安全管理	
VI. 臨床実習	1. 実習前準備 2. 医療提供施設実習実施内容 3. 地域実習実施内容 4. 実習後評価	

專門基礎分野

I 人体の構造と機能及び心身の発達

大項目	中項目	小項目
1 解剖学	A 総論	a 定義、分類
		b 発生等
	B 骨格系	a 骨の構造と分類
		b 骨吸収と骨形成
		c 関節の構造と分類
		d 各部の骨・関節・靭帯
	C 筋系	a 筋の構造と形態
		b 各部の筋・腱
	D 神経系	a 中枢神経系
		b 末梢神経系
	E 脈管系	a 心臓
		b 動脈系
		c 静脈系
		d リンパ系
F 内臓諸器官	a 消化器	
	b 呼吸器	
	c 泌尿器、生殖器	
	d 内分泌腺	
G 感覚器	a 視覚器、平衡聴覚器、皮膚受容器等	
H 体表解剖	a 動脈	
	b 神経	
	c 筋	
	d 骨	
	e 関節	
I 応用解剖（機能解剖・局所解剖・断層解剖を含む）	a 中枢神経系	
	b 筋、骨格、末梢神経系	
	c 内臓諸器官	
J 組織	a 細胞の構造と機能	
	b 細胞の分化（遺伝子、DNA等）・老化・死	
2 生理学	A 総論	a 細胞生理
		b 再生医学の基礎
	B 筋	a 筋線維の構造と機能
		b 筋収縮
	C 神経	a 神経線維の構造
		b 興奮と伝導
		c シナプス伝達
		d 反射
		e 受容器－感覚神経伝達
		f 神経－筋接合部の伝達
		g 中枢神経（高次脳機能を含む）
h 末梢神経		
i 可塑性		

I 人体の構造と機能及び心身の発達

大項目	中項目	小項目
2 生理学	D 感覚、認知	a 体性感覚（表在感覚、深部感覚）
		b 内臓感覚
		c 視覚
		d 聴覚、平衡覚
		e 嗅覚、味覚
		f 認知機能
	E 言語、発声構音	a 発声器官
		b 言語中枢
	F 運動	a 運動単位
		b 随意運動
		c 筋緊張
		d 運動における生体の生理的变化
	G 自律神経	a 交感神経系
		b 副交感神経系
	H 呼吸	a 呼吸運動（気道内圧、肺の容積変化を含む）
		b ガス交換とガスの運搬
		c 酸塩基平衡
		d 呼吸中枢
	I 循環（心臓の機能を含む）	a 循環の調節（血液とリンパの循環）
		b 心筋の特性
		c 心臓拍動の自動性と心拍出量
		d 心臓の刺激伝導系
	J 血液、免疫	a 血液の成分
		b 血液の細胞成分の生成と分化
		c 血液凝固と線溶現象
		d 免疫機能
	K 咀嚼・嚥下、消化、吸収	a 唾液分泌の機序
b 咀嚼・嚥下運動と嚥下反射中枢		
c 胃内消化（胃液分泌、蠕動運動を含む）		
d 腸内消化吸収		
e 肝臓・胆嚢・膵臓の機能		
f 消化酵素		
g 栄養素と吸収部位		
L 腎、排尿	a 尿の性状	
	b 糸球体・尿細管の機能	
	c 排尿機構（排尿中枢を含む）	
M 排便	a 胃大腸反射等	
N 内分泌、栄養、代謝（生化学の基礎を含む）	a ホルモンとビタミン	
	b 糖・蛋白・脂質代謝	
	c 代謝率（基礎・エネルギー代謝率を含む）	
O 体温調節	a 体温調節中枢	
	b 熱の産生と放出の機序	

I 人体の構造と機能及び心身の発達

大項目	中項目	小項目
2 生理学	P 生殖	a 勃起、射精 b 排卵、月経、妊娠、出産
	Q 老化	
3 運動学	A 総論	a 定義、目的
		b 力学の基礎
		c 運動器の構造と機能（機能解剖を含む）
		d 運動の中樞神経機構
		e 運動とエネルギー代謝
		f 運動と呼吸・循環
	B 四肢と体幹の運動	a 顔面・頭頸部の運動
		b 上肢帯と上肢の運動
c 下肢帯と下肢の運動		
d 体幹の運動		
e 呼吸運動		
C 動作解析		
D 姿勢		
E 歩行		
F 運動制御と運動学習		
4 人間発達学	A 総論	a 定義、目的
		b 発達理論
		c 発達段階と発達課題
		d 発達評価（改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、子どもの能力低下評価法〈PEDI〉等）
		e 運動発達（原始姿勢反射を含む）
		f 精神発達
		g 心理社会的発達
	B 各期における発達	a 胎生期
		b 小児期
		c 青年期
		d 成人期
		e 老年期
f その他		

II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目	
1 医学概論	A 科学的思考の基盤	a 医学の歴史	
		b 健康と疾病の概念、疾病分類	
		c 演繹と帰納、推論、科学的検証、臨床意思決定、ガイドライン	
	B 人間と生活	a コミュニケーション、人間関係	
		b 生命倫理、医の倫理	
	C 社会の理解	a 地域社会、共生社会、多様性社会	
2 病理学概論	A 病因論（内因・外因を含む）		
	B 病理学的変化	a 循環障害（ショックを含む）	
		b 進行性・退行性病変	
		c 炎症・感染・免疫・アレルギー	
		d 腫瘍・新生物	
		e 奇形・遺伝	
		f その他	
	C 生体反応	a ホメオスターシス	
		b ストレス	
	3 臨床医学総論	A 疾病の診断	a 問診、身体所見、記録
b 生化学検査			
c 生理検査			
d 画像検査			
B 薬物療法（薬理を含む）			
C 外科的治療		a 手術・カテーテル治療・その他の侵襲的治療	
D 栄養管理			
E 救命救急医療		a 救命救急処置（心肺蘇生法、AEDを含む）	
F 疾病の予防			
4 リハビリテーション医学		A 総論	a リハビリテーション医学の定義と歴史
			b リハビリテーション医学の特徴
			c 研究法（臨床疫学、医療統計を含む）
	B 健康と生活機能の評価	a 医学的情報（病理・生理・画像診断を含む）の評価	
		b 心身機能・身体構造の評価	
		c 活動の評価	
		d 参加の評価	
		e 背景因子（環境因子および個人因子）の評価	

Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目
4 リハビリテーション医学	C 機能障害の評価とリハビリテーション	a 運動障害（運動麻痺、筋力低下、持久力低下、筋萎縮、関節拘縮、運動失調、痙縮、固縮を含む）
		b 動作の障害
		c 呼吸障害
		d 循環障害
		e 代謝・内分泌障害
		f 発達障害
		g 構音障害
		h 視覚障害
		i 聴覚障害
		j 高次脳機能障害
		k 疼痛
		l 摂食嚥下障害
		m 栄養障害
		n 排尿障害
	o 排便障害	
	p 精神・心理障害	
	D 活動制限の評価とリハビリテーション	a 日常生活活動〈ADL〉の制限
		b 手段的日常生活活動〈IADL〉の制限
	E 参加制約の評価とリハビリテーション	
	F リハビリテーション計画	a リスク管理
		b 機能的帰結の予測
		c リハビリテーションプログラムの立案
	G リハビリテーション治療	a 理学療法
		b 作業療法
		c 言語聴覚療法
		d 義肢・装具療法
		e 運動学習
		f 基本動作練習
		g 応用動作練習
		h バイオフィードバック療法
		i 神経ブロック（ボツリヌス療法含む）
		j 心理的アプローチ
		k リハビリテーション機器（杖、車椅子、座位保持装置、環境制御装置を含む）
		l 摂食機能療法
		H 廃用症候群（不動を含む）
	b 病理、病態、症候	
	c 評価、検査（画像、生理検査を含む）	
	d 治療	

II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目
5 臨床心理学	A 基礎理論	a 歴史
		b 防衛機制と転移
		c 学習、記憶、行動
	B 発達心理および臨床心理	a 児童・青年期心理
b 成人・高齢者心理		
c 患者・障害者心理		
C 臨床心理検査法		
D 心理療法およびカウンセリング		
6 精神障害と臨床医学	A 疫学、予後	a 症状性を含む器質性精神障害
	B 病因、症候	b 精神作用物質使用による精神および行動の障害
		c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断	d 気分障害〈感情障害〉（躁うつ病、うつ病を含む）
		e 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
		f 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害、非器質性睡眠障害を含む）
	D リハビリテーション治療	g 成人のパーソナリティ及び行動の障害
		h 精神遅滞（知的障害）
		i 心理的発達の障害（限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害を含む）
		j 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害等）
		k てんかん
E 栄養、薬剤、その他の治療（精神療法を含む）		
7 骨関節障害と臨床医学	A 疫学、予後	a 変形性関節症、人工関節置換術後
	B 病理、症候	b 骨折、脱臼、靭帯損傷
		c 関節リウマチとその近縁疾患
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断	d スポーツ外傷、スポーツ障害
		e 脊椎疾患（椎間板ヘルニア、脊椎症を含む）
		f 腰痛症
	D リハビリテーション治療	g 切断（先天奇形を含む）
		h 肩関節疾患（肩関節周囲炎、腱板損傷を含む）
	E 栄養、薬剤、その他の治療	i 骨粗鬆症
		j 骨壊死性疾患（大腿骨頭壊死を含む）
		k 先天異常、系統疾患（骨端症を含む）
l 骨軟部腫瘍		

Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目	
8 慢性疼痛と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 慢性腰痛
	B 病理、症候		b CRPS 〈complex regional pain syndrome〉 (肩手症候群を含む)
	C 評価、検査 (画像・生理検査を含む)、診断		c 視床痛
	D リハビリテーション治療		d 幻肢痛
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e その他 (帯状疱疹、三叉神経痛等)
9 中枢神経の障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 血管障害 (頭蓋内出血、脳梗塞を含む)
	B 病理、症候		b 感染・炎症性疾患 (脳炎、髄膜炎、脊髄炎、ヒト免疫不全ウイルス 〈HIV〉 による神経障害を含む)
	C 評価、検査 (画像・生理検査を含む)、診断		c 変性ならびに脱髄疾患 (Parkinson 病とその関連疾患、脊髄小脳変性症 〈SCD〉、運動ニューロン疾患、認知症、多発性硬化症 〈MS〉)
	D リハビリテーション治療		d 外傷 (外傷性脳損傷 〈TBI〉、脊髄損傷)
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 腫瘍 f てんかん g 視覚・聴覚障害
10 末梢神経・筋の障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 末梢神経・筋疾患 (多発性ニューロパチー、筋ジストロフィー等)
	B 病理、症候		b 外傷 (絞扼性神経障害を含む)
	C 評価、検査 (画像・生理検査を含む)、診断		c 腫瘍
	D リハビリテーション治療		
	E 栄養、薬剤、その他の治療		
11 小児の障害と臨床医学	A 保健、疫学	A S E に 共 通	a 脳性麻痺
	B 病理、症候		b 水頭症 (Arnold-Chiari 奇形等)
	C 評価、検査 (画像・生理検査を含む)、診断		c 二分脊椎
	D リハビリテーション治療		d 悪性腫瘍
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 遺伝子病、染色体異常、系統疾患 (先天奇形、Down 症候群を含む)

II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目	
1 2 内部障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉、間質性肺炎、誤嚥性肺炎等）
	B 病理、症候		b 循環器疾患（心臓疾患、末梢動脈疾患、静脈・リンパ管疾患）
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断		c 消化管・肝胆膵疾患
	D リハビリテーション治療		d 腎・泌尿器疾患（慢性腎臓病等）
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 生殖器疾患
			f 血液疾患、自己免疫疾患、免疫不全
			g 内分泌・代謝疾患（糖尿病、栄養障害、サルコペニアを含む）
			h その他（臓器移植後等）
			注：それぞれの疾患には感染症を含む
1 3 がん関連障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 脳腫瘍
	B 病理、症候		b 頭頸部腫瘍
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断		c 呼吸器・胸郭内腫瘍
	D リハビリテーション治療（リンパ浮腫治療を含む）		d 消化器腫瘍
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 骨腫瘍
			f 女性器の腫瘍
			g 血液腫瘍・骨髄移植
			h 転移性腫瘍
			i その他
1 4 老年期障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 老年症候群および虚弱
	B 病理、症候		b 認知症
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断		c うつ状態
	D リハビリテーション治療		d 末梢循環障害
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 誤嚥性肺炎
			f 骨粗鬆症、骨折
			g せん妄
			h サルコペニア、フレイル
			i 摂食嚥下障害
			j 栄養障害
	k 緩和ケア（ターミナルケアを含む）		

II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目
15 その他の障害と臨床医学	A 疫学、予後	a 熱傷
	B 病理、症候	
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断	
	D リハビリテーション治療	
	E 栄養、薬剤、その他の治療	

A
S
E
に
共
通

Ⅲ 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

大項目	中項目	小項目
1 保健医療福祉	A 医療	a インフォームドコンセント
		b 安全管理（アクシデント、インシデント、転倒予防、感染対策等）
		c 個人情報保護
		d チーム医療、多職種連携
		e 医療面接
		f EBM〈根拠に基づいた医療〉
		g NBM（narrative-based medicine）〈物語に基づいた医療〉
		h 医療の供給体制（一次・二次・三次医療、救急・災害・へき地医療、地域医療）
	B 保健	a 保健予防の概念（一次・二次・三次予防）
		b 健康管理、健康増進
		c 環境保健
		d 地域保健
		e 母子保健
		f 学校保健
		g 産業保健
		h 高齢者保健
		i 精神保健
		j 感染症対策（届出、予防を含む）
	C 医療・福祉制度	a 医療保険制度
		b 公的扶助制度
		c 介護保険制度
	D 関連法規	a 医事法規 <ul style="list-style-type: none"> ① 医療法 ② 理学療法士及び作業療法士法
		b 保健衛生法規 <ul style="list-style-type: none"> ① 地域保健法 ② 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律〈精神保健福祉法〉
		c 福祉関係法規 <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律〈障害者総合支援法〉 ② 児童福祉法 ③ 身体障害者福祉法 ④ 知的障害者福祉法 ⑤ 老人福祉法 ⑥ 障害者の雇用の促進等に関する法律〈障害者雇用促進法〉 ⑦ 発達障害者支援法

Ⅲ 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

大項目	中項目	小項目
2 リハビリテーション概論	A 理念	a リハビリテーションの定義・歴史
		b ノーマライゼーション・自立生活〈independent living、IL〉
		c QOL〈quality of life〉
		d 総合リハビリテーション
	B 疾病・生活機能の概念と分類	a 国際疾病分類〈International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems、ICD〉
		b 国際生活機能分類〈International Classification of Functioning, Disability and Health、ICF〉
	C 患者・障害者の心理・社会的側面	a 患者・障害者の心理
		b 障害受容
		c 心理教育（患者教育、家族教室）
		d 自立支援、就労支援・両立支援
	D リハビリテーション医療	a リハビリテーション関連職種とその役割
		b チームアプローチ（多職種連携の理解を含む）
		c 評価会議（カンファレンス）とゴール設定
		d リハビリテーションプログラム、クリニカルパス
	E リハビリテーションの諸相	a 医学的リハビリテーション
		b 教育的リハビリテーション
		c 職業的リハビリテーション
		d 社会的リハビリテーション
		e 地域リハビリテーション
	F 地域包括ケアシステム	a CBR〈community based rehabilitation〉

専門分野 (理学療法)

I 基礎理学療法学

大項目	中項目	小項目
1 理学療法の基本	A 歴史、現状	a 日本と世界の理学療法の歴史と現状
	B 生命・医療倫理	a プロフェッショナリズム
		b ノーマライゼーション
		c 死生観、看取り
	C 社会の理解	a 人間関係論
		b 多様性社会
		c 地域社会
	D 法規、関連制度	a 理学療法士及び作業療法士法
		b 障害者基本法
		c 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律〈障害者総合支援法〉
	E 障害の捉え方	a 国際疾病分類〈International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems、ICD〉
		b 国際生活機能分類〈International Classification of Functioning, Disability and Health、ICF〉
		c NCMRR〈National Center for Medical Rehabilitation Research〉分類、Nagiモデル
	F 臨床疫学	
G 医療統計	a 実験計画法	
	b 推測統計	
	c 妥当性、信頼性	
	d 感度、特異度、過誤、尤度比	
H 根拠に基づいた理学療法	a 診療ガイドライン	
	b エビデンス、推奨グレード	
	c 物語りに基づいた実践〈narrative based practice : NBP〉	
2 理学療法の範囲	A 領域	a 保健、医療、福祉
	B 急性期	
	C 回復期	
	D 生活期	
	E 終末期(人生の最終段階)	
	F 健康維持、健康増進	
	G 予防	a 疾病予防
		b 虚弱予防
		c 再発予防
		d 重症化予防
e 障害予防		
H 研究	a 研究の倫理	
	b 研究の方法	

I 基礎理学療法学

大項目	中項目	小項目
3 理学療法学の基礎	A 組織	a 細胞、遺伝子
	B 運動発現	a 運動の発現機構
		b 関節構造、関節可動域
		c 筋収縮、筋機能
	C 運動制御	a 運動の制御機構
		b 随意運動のメカニズム
		c 中枢神経系
		d 末梢神経系
	D エネルギー供給	a 呼吸
		b 循環
		c 代謝
		d 消化、吸収
		e 自律神経
	E 認知	a 感覚、知覚
		b 認知
	F 情緒、心理	a 意欲
		b ライフサイクル
		c 障害受容
	G 基本動作	a 姿勢
		b 床上動作
c 移乗		
H 歩行	a 歩行周期	
	b パラメータ（時間因子、距離因子）	
	c 力学的因子	
	d 筋活動	
I 動作障害	a 日常生活活動〈ADL〉	
	b 手段的日常生活活動〈IADL〉	
J 運動学習	a 運動学習理論	
	b 条件付け、フィードバック	
	c 可塑性、再組織化	
K 痛み	a 分類	
	b メカニズム	
	c 制御機構	
L 栄養	a 栄養素	
	b 消化、代謝、体内動態	
	c 摂食行動、摂取基準	
M 薬理	a 薬の定義	
	b 作用機序	
	c 有害反応	
	d 薬物療法と理学療法	
N 疲労	a 末梢性疲労	
	b 中枢性疲労	
O 発達	a 正常発達	
	b 運動・精神の発達遅滞	

I 基礎理学療法学

大項目	中項目	小項目
3 理学療法学の基礎	P 加齢	a 生理的変化
		b 社会的変化
	Q コミュニケーション	
	R 活動、参加	a 日常生活活動〈ADL〉、手段的日常生活活動〈IADL〉
		b 参加
	S QOL〈quality of life〉	a 健康関連 QOL〈HRQOL〉等
	T 環境	a 環境の構造
b 環境と個人		

Ⅱ 理学療法管理学

大項目	中項目	小項目
1 職業倫理	A コンプライアンス・法令遵守	a 社会的責任
		b 守秘義務・個人情報保護
		c 説明と同意
		d 医療広告ガイドライン
		e 利害衝突、コンフリクトマネジメント
	B プロフェッショナリズム	a 倫理要綱
		b ジュネーブ宣言、リスボン宣言
		c 患者の自己決定権
		d インフォームド・コンセント
e 守秘義務		
C 行動規範	a パワーハラスメント	
	b セクシャルハラスメント	
	c その他のハラスメント	
2 職場管理	A 情報管理	a 診療記録
		b 書類管理
		c 個人情報保護、情報セキュリティー
	B 多職種連携	a 業務調整
		b カンファレンス
		c 地域連携
	C 安全管理	a リスクマネジメント（インシデント・感染対策含む）
		b 機器の保守点検
		c 機器の配置
	D 労務管理、人事考課	a 雇用・年金制度
		b 報酬管理
	E 労働衛生管理	a 健康管理
		b 作業管理
		c 環境管理
	3 教育	A 理学療法教育の歴史
B 学習内容		a 理学療法カリキュラム
C キャリア支援		a キャリアデザイン
D 生涯学習		a 卒後教育
E 教育学		a 教育原理
	b 教育心理学	
	c 教授方法	
	d 教育評価	
	e 障害児教育	
4 法規・関連制度	A 社会保険制度	a 医療保険制度
		b 介護保険制度
		c 診療報酬

Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目	
1 目的	A 評価の目的		
2 時期と手順	A 臨床推論		
	B 病期		
	C スクリーニング		
	D 情報収集	a 検査・画像所見等・他職種情報	
		b 一般情報	
		c 医学的情報（血液・生化学検査、各種画像検査、手術、服薬）	
		d 社会的情報	
		e 他職種からの情報	
	E 評価計画の立案と説明		
	F 評価の実施	a 観察	
b 面接			
c 検査・測定			
G 解釈、統合			
H 問題点・利点の抽出			
I 目標設定、治療計画立案			
3 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所所見	a 意識、覚醒、睡眠	
		b バイタルサイン	
		c 栄養状態	
		d 皮膚（褥瘡を含む）	
		e 排尿、排便	
		f 浮腫	
		g 摂食嚥下	
	B 画像評価	a X線	
		b CT、MRI、SPECT、PET等	
		c 超音波エコー	
		d 心電図	
	C 神経生理学的評価	a 筋電図、神経伝導検査、誘発電位、磁気刺激法	
	D 運動学的評価	a 3次元動作解析、床反力分析	
	E 呼吸、循環、代謝	a 呼吸機能	
b 循環機能			
c 消化・吸収機能			
d 内分泌機能			
e 全身持久力			
f 酸素・エネルギー供給			
g 代謝機能			
h 腎機能			

Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
3 心身機能、身体構造	F 運動	a 反射
		b 身体計測（四肢長、周径）
		c 姿勢
		d 筋緊張
		e 関節可動域
		f 筋機能（筋力、持久力、協調性）
		g 協調機能
		h 平衡機能
		i バランス
		j 脳神経（運動系）
	G 感覚	a 体性感覚（表在感覚、深部感覚）
		b 特殊感覚
		c 脳神経（感覚系）
	H 痛み	a 定義
		b 分類
		c 機序
		d 急性痛、慢性痛
		e 心理的評価
	I 発達	a 全般的発達検査（改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、子どもの能力低下評価法〈PEDI〉等）
		b 原始反射、姿勢反射
		c 運動発達
		d 感覚、知覚、認知
		e 心理・社会的発達
		f 粗大運動能力尺度〈gross motor function measure、GMFM〉、粗大運動能力分類システム〈gross motor function classification system、GMFCS〉
	J 気分	a 抑うつ
		b 情動
		c 関心（アパシー）
	K 認知症	a 病期
		b 認知症（BPSDを含む）
	L 高次脳機能	a 感情
		b 注意
		c 記憶・記銘
		d 認知（失認）
		e 行為（失行）
		f コミュニケーション
g 言語（失語）		
h 遂行機能、前頭葉機能		

Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
4 基本動作	A 姿勢	a 臥位・座位、立位
	B 床上動作	a 寝返り、起き上がり、移動
	C 移乗	
	D 歩行	a 歩行周期（時間因子、距離因子）
		b 観察、定量的解析
		c 不整地歩行
	E 移動（歩行を除く）	a 障害物回避
		b 階段昇降
		c 走行、跳躍
		d 歩行補助具
e 車椅子		
5 活動、参加	A 日常生活活動〈ADL〉	a 食事
		b 排泄
		c 更衣
		d 整容
		e 入浴
		f コミュニケーション
		g ADL 検査（FIM、Barthel index 等）
		h 手段的日常生活活動〈IADL〉
	B 参加	a 職業
		b 趣味、余暇活動
c 社会交流		
6 背景因子等	A 個人因子	a 生活歴、職業歴
		b 興味・価値
		c 自己効力感
		d 生活範囲
	B 環境因子	a 家族、家庭
		b 住環境
		c 地域環境
		d 職場環境
	C QOL〈quality of life〉	
	7 義肢、装具、支援機器、自助具等	A 義肢、装具
b 装具（上肢、下肢、体幹）		
c 適合評価		
B 支援機器、自助具等		a 車椅子、座位保持装置
		b 移乗機器
		c 歩行補助具
		d 自助具・日常生活用具
		e 福祉用具
		f 適合評価
		g 支援機器

Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	A 骨関節	a 病期
		b 変形性関節症、人工関節置換術後
		c 骨折、脱臼、靭帯損傷
		d 関節リウマチとその近縁疾患
		e スポーツ外傷・障害
		f 外傷、障害
		g 脊椎疾患
		h 腰痛症
		i 切断（先天奇形を含む）
		j 肩関節周囲炎、腱板損傷
		k 骨粗鬆症
		l 骨壊死性疾患（大腿骨頭壊死を含む）
		m 先天性異常、系統疾患
		n 骨軟部腫瘍
	B 中枢神経	a 病期
		b 脳血管障害（片麻痺を含む）
		c Parkinson 病とその関連疾患
		d 脊髄小脳変性症〈SCD〉
		e 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
		f 多発性硬化症〈MS〉
		g 外傷性脳損傷〈TBI〉
		h 脊髄損傷（頸髄損傷を含む）
		i 脳腫瘍
		C 神経筋疾患
	b 筋ジストロフィー	
	c 多発性筋炎、皮膚筋炎	
	d 重症筋無力症	
	e ニューロパチー（Guillain-Barré 症候群を含む）	
	f 末梢神経損傷（腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む）	
	D 発達	a 病期
		b 脳性麻痺
		c 二分脊椎
		d 発達性協調運動障害
		e Down 症候群
		f 骨系統疾患（ペルテス病等）
		g 先天性神経筋疾患
		h 早産児
		i 重症心身障害児

Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	E 呼吸	a 病期
		b 間質性肺炎
		c 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉
		d 結核性肺炎
		e 外科術後
		f 人工呼吸器管理状態
	F 循環	a 病期
		b 虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
		c 心不全（急性・慢性）
		d 末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、Raynaud症候群等）
		e 大動脈疾患、弁膜疾患
		f 深部静脈血栓症
	G 代謝	a 病期
		b 糖尿病
		c 肥満
		d 慢性腎臓病
	H 感覚器	a 視覚障害
		b 聴覚・前庭障害
	I 集中治療	a 救命救急
		b 集中治療・クリティカルケア
		c モニタリング
		d 人工呼吸器
	J 廃用症候群	
	K がん等	a 病期
		b 周術期
		c リンパ浮腫
		d 骨転移
e 緩和		
L サルコペニア、フレイル		
M 認知障害	a 認知症	
	b 高次脳機能障害（失語、失行、失認等）	
N 有痛性疾患・障害	a 急性痛	
	b 慢性痛	
	c がん性疼痛	
O 皮膚障害	a 熱傷	
	b 褥瘡	
P その他の疾患・障害	a 摂食嚥下障害	
	b 排泄障害	
	c 精神疾患	
	d 多疾患併存	
	e 産科・婦人科領域の疾患、産前産後	
9 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業理学療法	a 作業関連疾患、治療と仕事の両立支援

IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	A 目的	
	B 治療プログラムの立案	a 診療ガイドライン
		b 理学療法プログラムの立案
	C リスク管理	a 疾患別
		b 病期別
		c ライフステージ別
		d 褥瘡の予防と治療
		e 転倒の予防と治療
		f 救急措置
g 喀痰等の吸引		
2 運動療法	A 運動療法	a 全身調整運動
		b ポジショニング・良肢位の保持
		c 関節可動域運動
		d 筋力増強運動
		e ストレッチング
		f 神経筋再教育
		g 筋持久力
		h 全身持久力
		i 感覚・知覚再教育
		j 協調運動
		k バランス練習
		l 基本姿勢保持練習
		m 基本動作練習
		n 歩行練習
		o 痛みに対する運動療法
		p 運動学習
		q 発達障害に対する運動療法
		r 各種の治療手技
3 物理療法	A 物理療法	a 温熱・寒冷療法
		b 電気刺激療法
		c 電磁波療法（超短波、極超短波）
		d 光線療法
		e 超音波療法
		f 水治療法
		g 牽引療法
		h マッサージ
4 義肢、装具、支援機器、自助具等	A 義肢、装具、支援機器、自助具等	a 義肢（義手、義足）
		b 装具（上肢、下肢、体幹）
		c 車椅子、座位保持装置
		d 移乗機器
		e 歩行補助具
		f 自助具・日常生活用具
		g 適合技術
		h 支援機器

IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
5 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所状態	a 意識、覚醒
		b バイタルサイン
		c 栄養状態
		d 皮膚（褥瘡を含む）
		e 排尿、排便
		f 浮腫
	B 呼吸、循環、代謝	a 呼吸機能
		b 循環機能
		c 全身持久力
		d 酸素・エネルギー供給
		e 代謝機能
	C 運動	a 関節可動域
		b 筋力、筋持久力
		c 全身持久力
		d 筋緊張
		e 協調機能
		f 平衡機能
		g 脳神経（運動系）
	D 感覚	a 体性感覚（表在感覚、深部感覚）
		b 特殊感覚
		c 脳神経（感覚系）
	E 痛み	a 急性痛
		b 慢性痛
c 集学的・包括的アプローチ		
F 発達	a 運動発達	
	b 通学・通級支援	
G 高次脳機能	a 感情	
	b 注意	
	c 記憶	
	d 認知、行為、コミュニケーション	
	e 遂行機能、前頭葉機能	
H 摂食嚥下		
6 基本動作	A 姿勢保持	a 臥位・座位、立位
	B 床上動作	a 寝返り、起き上がり、移動
	C 移乗	
	D 歩行	a 筋力、支持性
		b バランス
		c テンポ、リズム
		d 不整地歩行、応用歩行
	E 移動（歩行を除く）	a 障害物回避
		b 階段昇降
		c 走行、跳躍
d 歩行補助具		
e 車椅子		

IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目	
7 活動、参加	A 日常生活活動〈ADL〉	a 食事	
		b 排泄	
		c 更衣	
		d 整容	
		e 入浴	
		f コミュニケーション	
		g 手段の日常生活活動〈IADL〉	
B 参加	a 職業		
	b 趣味、余暇活動		
	c 社会交流		
8 背景因子等	A 個人因子	a 興味・価値	
		b 自己効力感	
		c 生活範囲	
	B 環境因子	a 家族、家庭	
		b 住環境	
		c 地域環境	
		d 職場環境	
	C QOL〈quality of life〉		
	9 疾患、障害	A 骨関節	a 病期
			b 変形性関節症、人工関節置換術後
c 骨折、脱臼、靭帯損傷			
d 関節リウマチとその近縁疾患			
e スポーツ外傷・障害			
f 外傷、障害			
g 脊椎疾患			
h 腰痛症			
i 切断（先天奇形を含む）			
j 肩関節周囲炎、腱板損傷			
k 骨粗鬆症			
l 骨壊死性疾患（大腿骨頭壊死を含む）			
m 先天性異常、系統疾患			
n 骨軟部腫瘍			
B 中枢神経		a 病期	
		b 脳血管障害（片麻痺を含む）	
		c Parkinson 病とその関連疾患	
		d 脊髄小脳変性症〈SCD〉	
		e 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉	
		f 多発性硬化症〈MS〉	
		g 外傷性脳損傷〈TBI〉	
		h 脊髄損傷（頸髄損傷を含む）	
		i 脳腫瘍	

IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
9 疾患、障害	C 神経筋疾患	a 病期
		b 筋ジストロフィー
		c 多発性筋炎、皮膚筋炎
		d 重症筋無力症
		e ニューロパチー（Guillain-Barré 症候群を含む）
		f 末梢神経損傷（腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む）
	D 発達	a 病期
		b 脳性麻痺
		c 二分脊椎
		d 発達性協調運動障害
		e Down 症候群
		f 骨系統疾患（ペルテス病等）
		g 先天性神経筋疾患
		h 早産児
		i 重症心身障害児
	E 呼吸	a 病期
		b 間質性肺炎
		c 慢性閉塞性肺疾患（COPD）
		d 結核性肺炎
		e 外科術後
		f 人工呼吸器管理状態
	F 循環	a 病期
		b 虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
		c 心不全（急性・慢性）
		d 末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、Raynaud 症候群等）
		e 大動脈疾患、弁膜疾患
		f 深部静脈血栓症
	G 代謝	a 病期
		b 糖尿病
		c 肥満
		d 慢性腎臓病
	H 感覚器	a 視覚障害を合併する歩行・生活指導
		b 前庭性めまいに対する運動療法
	I 集中治療	a 救命救急
		b 集中治療・クリティカルケア
		c モニタリング
d 人工呼吸器		
J 廃用症候群		

IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
9 疾患、障害	K がん等	a 病期
		b 周術期
		c リンパ浮腫
		d 骨転移
		e 緩和ケア
	L サルコペニア、フレイル	
	M 認知障害	a 認知症
		b 高次脳機能障害（失語、失行、失認等）
	N 有痛性疾患・障害	a 急性痛
		b 慢性痛
		c がん性疼痛
	O 皮膚障害	a 熱傷
		b 褥瘡
	P その他の疾患・障害	a 摂食嚥下障害
		b 排泄障害
c 精神疾患		
d 多疾患併存		
e 産科・婦人科領域の疾患、産前産後		
10 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業理学療法	a 作業関連疾患、治療と仕事の両立支援

V 地域理学療法学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	A 地域概念と制度	a 地域とは
		b 地域における障害者（障害児を含む）・高齢者
		c 地域包括ケアシステム
		d 地域医療構想
		e 地域リハビリテーション〈Community Based Rehabilitation、CBR〉、自立生活〈independent living、IL〉、ノーマライゼーション
	B 地域リハビリテーション	a 歴史
		b 概念と動向
		c リハビリテーションの理念
	C 地域理学療法	a 理念と目的
		b 多職種による協働
		c 地域での連携
		d 病態と病期に応じた評価と治療
		e 訪問理学療法
		f 通所理学療法
		g 施設での理学療法（介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、介護医療院等）
		h 小児の理学療法（通所施設、児童発達支援施設等）
	D 災害時	a 災害時の支援
		b 国際支援
	E 産業理学療法	
	F 学校保健	a 特別支援教育、スポーツ支援
	G 緩和ケア・人生の最終段階	
	H 健康維持、健康増進	
	I 母子保健	a 早産児、発達性協調運動障害、重症心身障害児
J 予防	a 疾病予防	
	b 再発予防	
	c 障害予防	
	d 虚弱予防、サルコペニア、フレイル	
	e 重症化予防	
K バリアフリーとユニバーサルデザイン	a 社会環境整備	
	b 住環境整備	
	c 家屋改造	
L 福祉用具	a 福祉用具導入の考え方	
	b 代表的な福祉用具	
	c 自立生活支援機器（環境制御装置等を含む）	
	d スポーツ・レクリエーション用具	
	e IT・ICTの導入と展開	
M 家族への指導	a 家族等への指導支援の目的	
	b 介助・支援方法	

V 地域理学療法学

大項目	中項目	小項目
2 評価と支援	A 施設入所者	a 廃用症候群
		b 精神・認知障害
	B 在宅（訪問、通所）	c 脳血管障害
	C 生活期	d 骨関節障害
	D 終末期（人生の最終段階）	e 神経障害
		f 呼吸障害
		g 循環障害
		h 悪性腫瘍
		i 代謝障害
		j 発達障害
		k 住環境
		l 生活状況、社会参加支援（就労支援を含む）
3 安全管理	A 感染予防	
	B 急変時の対応	

VI 臨床実習

大項目	中項目	小項目
1 実習前準備	A 医療倫理	a 社会的責任
		b インフォームドコンセント
	B 理学療法における倫理	a 理学療法士の倫理（患者の権利、理学療法士の義務）
	C 安全管理	a アクシデント、インシデント、転倒予防、感染対策等
	D 感染予防	a 標準予防策（手指衛生、咳エチケット等）
		b マスク、防護服、手袋など
		c 感染区域
	E 個人情報保護、情報管理	
	F 事故・過誤の対応	
	G 対人関係技法	a 対象者との関係構築
b 理学療法士としてのチームでの関係構築		
c コミュニケーション、身だしなみ、態度		
H 医療面接	a 傾聴、面接者の態度等	
I 実習前知識技能評価	a 態度・知識・技能	
	b 行動規範（ハラスメント予防）	
2 医療提供施設実習実施内容	A 診療参加型実習	a 指導体制
		b 能動的学習等
	B 情報収集	a 他部門、診療録
	C 医学的情報の理解	a 生化学検査
		b 生理検査
		c 画像検査
		d 医療機器
		e 手術記録
		f 服薬状況
	D 検査、測定	a 理学療法の検査
	E 問題点の抽出	
	F 全体像の把握	
	G 目標の設定	
	H 治療プログラム立案	a 立案、実施
b プログラム修正		
I 他部門との連携	a チーム医療	
	b 多職種連携	
J 記録、報告	a 評価・治療経過の記録と報告	
	b 問題志向型医療記録（POMR）	
	c SOAP（主観的所見、客観的所見、評価、計画）	
	d 症例報告	
K 地域理学療法		
L 実習前・後評価	a 医療面接、実技、OSCE 等	

VI 臨床実習

大項目	中項目	小項目
3 地域実習実施内容	A 情報収集	a 他部門、診療録
	B 通所リハビリテーション	
	C 訪問リハビリテーション	
	D 多職種による協働	
	E ケアプラン	
4 実習後評価	A 実習で学ぶべき内容	a 態度
		b 知識
		c 技能
		d プロフェッショナリズム
		e 思考力・判断力・表現力
		f 主体性・多様性・協働性

専門分野 （作業療法）

I 基礎作業療法学

大項目	中項目	小項目
1 作業療法の基本	A 歴史、現状	a 日本と世界の作業療法
	B 生命・医療倫理	a プロフェッショナリズム
		b ノーマライゼーション
		c ユニバーサルデザイン
		d 死生観・看取り
	C 法規、関連制度	a 理学療法士及び作業療法士法
		b 医療保険制度
		c 介護保険制度
		d 障害者基本法
		e 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律〈障害者総合支援法〉
		f 障害者権利条約
		g 障害者虐待防止法
		h 地域包括ケアシステム
	D 疾病・生活機能の概念と分類	a 国際疾病分類〈ICD〉
		b 国際生活機能分類〈ICF〉
		c 米国精神医学会精神疾患診断分類〈DSM〉
	E 臨床疫学	a EBM
	F 医療統計	a 記述統計
b 推測統計		
c 感度、特異度、尤度比、妥当性、信頼性		
G エビデンスに基づく作業療法	a クリニカルリーズニング	
	b 診療ガイドライン	
	c 推奨グレード	
	d Narrative Based Medicine 〈NBM〉	
H 過程	a スクリーニング	
	b 評価	
	c 治療計画	
	d 治療介入	
	e 効果判定	
	f 記録、報告	
2 作業療法の範囲	A 領域	a 保健、医療、福祉
		b 身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域
	B 急性期	
	C 回復期	
	D 生活期	
	E 終末期(人生の最終段階)	
	F 健康維持、健康増進	
	G 予防	a 疾病予防
b 再発予防		
c 障害予防		
d 重症化予防		

I 基礎作業療法学

大項目	中項目	小項目
2 作業療法の範囲	H 研究、教育	a 研究倫理
		b 研究方法
		c 多職種連携教育
		d 養成教育と生涯教育
	I 災害時対応	
	J 国際協力	
3 作業療法学の基礎	A 作業の分類	a 日常生活活動〈ADL〉
		b 手段的日常生活活動〈IADL〉
		c 生産的活動
		d 余暇活動・遊び
		e 生活行為向上マネジメント〈MTDLP〉
	B 作業遂行要因	a 身体機能
		b 感覚、知覚、認知
		c 情緒、感情、心理
		d 意志、価値、興味
		e 役割、習慣
	C 作業の分析	a 作業特性
		b 作業過程
		c 作業環境

Ⅱ 作業療法管理学

大項目	中項目	小項目
1 職業倫理	A コンプライアンス・法令遵守	a 守秘義務・個人情報保護
		b 説明と同意
		c 医療広告ガイドライン
		d 利害衝突、コンフリクトマネジメント
	B プロフェッショナリズム	a 倫理要綱
		b ジュネーブ宣言、リスボン宣言
		c 患者の自己決定権
		d インフォームド・コンセント
		e 守秘義務
C 行動規範	a ハラスメント	
b 身体拘束、虐待		
2 職場管理	A 組織マネジメント	a 業務管理
		b ハラスメント
		c 労働時間管理
		d 人材管理
		e 医療の質的保障
	B 医療安全	a 感染予防・感染対策
		b 不衛生・不潔
		c ヒューマンエラー
		d インシデントとアクシデント
		e リスクコミュニケーション
		f 医療機器保持管理・機器配置
	C 情報管理	a 個人情報保護
		b 臨床記録、業務記録
		c 情報セキュリティ
	D 健康管理	a ストレスマネジメント
		b 健康診断
3 教育	A 養成教育	a 指定規則
		b カリキュラム
		c 臨床実習
	B 卒後教育	a 職能団体
		b 認定制度
		c 自己研鑽
	C 教育学	a 教育原理
		b 教育心理学
		c 教授方法
d 教育評価		
e 障害児教育		
4 法規・関連制度	A 社会保険制度	a 医療保険制度
		b 介護保険制度
		c 診療報酬
	B 障害・福祉サービス	a 障害者総合支援法
		b 障害者基本法

Ⅱ 作業療法管理学

大項目	中項目	小項目
4 法規・関連制度	C 就労支援	a 就労移行支援（障害者総合支援法）
		b 就労継続支援（障害者総合支援法）
		c 就労準備支援（生活困窮者自立支援法）
		d 就労定着支援（改正障害者総合支援法）
	D 介護予防	a 介護予防・日常生活支援総合事業
		b 保健指導
		c 地域ケア会議
	E その他	a 心神喪失者等医療観察法
		b 地域保健法
		c 学校教育法
		d 産業保健法

Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
1 目的	A 評価の目的	
2 時期と手順	A スクリーニング	
	B 初期・中期・最終	
	C 情報収集	a 検査・医用画像等
		b 服薬
	D 評価計画の立案と説明	
	E 評価の実施	a 観察
		b 面接
		c 検査
d 測定		
F 全体像の把握		
G 対応すべき生活機能と障害	a 肯定的側面	
	b 否定的側面	
H 目標設定		
3 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所所見	a 意識、バイタルサイン、睡眠
		b 神経生理学的評価（神経伝導速度検査、筋電図検査）
		c 栄養状態
		d 皮膚（褥瘡を含む）
		e 排尿、排便
		f 浮腫
	B 画像評価	a X線
		b CT、MRI、SPECT、PET等
		c 超音波エコー
		d 心電図
	C 呼吸、循環、代謝	a 呼吸機能
		b 循環機能
		c 代謝機能
		d 全身持久力
	D 摂食嚥下	a 摂食行動
		b 摂食嚥下
	E 運動	a 反射
		b 身体計測
		c 関節可動域、変形等
		d 筋力
e 持久力（局所、全身）		
f 協調性		
g 巧緻性		
h 平衡機能		
i 脳神経（運動系）		
j 上肢の総合的機能		

Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
3 心身機能、身体構造	F 感覚	a 体性感覚（表在感覚、深部感覚）
		b 特殊感覚
		c 脳神経（感覚系）
	G 痛み	a 痛みの分類
	H 発達	a 全般的発達（改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、児童向けウィスクラー知能検査〈WISC〉、子どもの能力低下評価法〈PEDI〉、新版K式発達検査、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査〈JMAP〉等）
		b 運動発達
		c 感覚・知覚・認知発達
		d 心理・社会発達
	I 高次脳機能	a 感情
		b 注意
		c 記憶
		d 認知
		e 行為
		f 言語
g コミュニケーション		
h 遂行機能、前頭葉機能		
J 精神・心理	a 精神症状	
	b 心理検査	
	c 社会的認知	
4 基本動作	A 姿勢	a 臥位・座位、立位
	B 床上動作	a 寝返り、起き上がり、移動
	C 移乗	
	D 歩行	a 歩行周期（時間因子、距離因子）
	E 観察・定量評価	a 3次元動作解析
		b 床反力
		c 圧分布評価
d 重心動揺		
e 筋活動		
5 活動、参加	A 日常生活活動〈ADL〉	a 起居、移乗、移動
		b 食事
		c 排泄
		d 更衣
		e 整容
		f 入浴
		g コミュニケーション
		h ADL検査（FIM、Barthel index等）
	B 手段的日常生活活動〈IADL〉	a 家事、金銭管理、交通機関の利用等
	C 余暇活動、遊び	

Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
5 活動、参加	D 職業関連活動	a 職業前評価
		b 職業能力評価
	E 教育関連活動	a 就学前
		b 就学支援
	F 参加	a 対人技能
		b 集団技能、交流技能
		c 役割
		d 家庭・地域での生活支援
		e 学校教育現場
		f 生活範囲
G 生活行為向上マネジメント	a 生活行為向上マネジメント〈MTDLP〉	
6 背景因子等	A 個人因子	a 生活歴、作業歴
		b 興味、価値観
		c 作業に関する自己評価
		d 生活時間
	B 環境因子	a 家族、家庭
		b 住環境
		c 地域環境
		d 職場環境
		e 学校環境
	C QOL〈Quality of Life〉	
7 義肢、装具、支援機器、 自助具等	A 義肢、装具	a 義肢（義手、義足）
		b 装具（上肢、下肢、体幹）
	B 支援機器、自助具等	a 車椅子、座位保持装置
		b ベッド・寝具
		c 移乗機器
		d 歩行補助具
		e ロボット・支援機器
		f 自助具
		g 日常生活用具

Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	A 精神・心理	a 病期
		b 器質性精神障害（症状性を含む）
		c 精神作用物質使用による精神および行動の障害
		d 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
		e 気分障害〈感情障害〉
		f 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
		g 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
		h 成人のパーソナリティ及び行動の障害
		i 精神遅滞（知的障害）
		j 心理的発達障害（限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害を含む）
		k 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害を含む）
		l てんかん
		B 認知症
	b 認知症（BPSD を含む）	
	C 高次脳機能障害	a 病期
		b 感情
		c 注意
		d 記憶
		e 認知
		f 行為
		g 言語、コミュニケーション
		h 遂行機能、前頭葉機能
	D 骨関節	a 病期
		b 変形性関節症
		c 骨折、脱臼、靭帯損傷
		d 関節リウマチとその近縁疾患
		e 外傷、障害
		f 切断（先天奇形を含む）
		g 骨形成不全
		E 中枢神経
	b 脳血管障害（片麻痺を含む）	
	c Parkinson 病とその関連疾患	
	d 脊髄小脳変性症〈SCD〉	
	e 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉	
	f 多発性硬化症〈MS〉	
	g 外傷性脳損傷〈TBI〉	
	h 脊髄損傷（頸髄損傷を含む）	
	i 脳腫瘍	

Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	F 神経筋疾患	a 病期
		b 筋ジストロフィー
		c 多発性筋炎、皮膚筋炎
		d 重症筋無力症
		e ニューロパチー (Guillain-Barré 症候群を含む)
		f 末梢神経損傷 (腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む)
	G 発達	a 病期
		b 脳性麻痺
		c 二分脊椎
		d 運動発達遅滞
		e 重症心身障害
		f Down 症候群
		g 精神・心理的発達の障害 (特異的発達障害、限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害を含む)
	H 呼吸	a 病期
		b 間質性肺炎
		c 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
		d 結核性肺炎
		e 外科術後
		f ICU 管理
		g 人工呼吸器管理状態
	I 循環	a 病期
		b 虚血性心疾患 (心筋梗塞、狭心症)
		c 心不全 (急性・慢性)
		d 末梢動脈疾患
		e 大動脈疾患、弁膜疾患
		f 閉塞性動脈硬化症
		g Raynaud 症候群
h 深部静脈血栓症		
J 代謝	a 病期	
	b 糖尿病	
	c 肥満	
	d 慢性腎臓病	
K 感覚器	a 視覚障害	
	b 聴覚・前庭障害	
L 廃用症候群	a サルコペニア、フレイル	
M がん等	a 病期	
	b 周術期	
	c リンパ浮腫	
	d 骨転移	
	e 緩和	

Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	N 熱傷	
	O その他の疾患・障害	a 摂食嚥下障害、有痛性疾患等 b 多疾患併存
9 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業作業療法	a 作業関連疾患、治療と仕事の両立支援
	C リエゾン精神医療	a リエゾン作業療法を含む

IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	A 目的	
	B 治療プログラムの立案	a 診療ガイドライン
		b 作業療法プログラムの立案
	C リスク管理	a 疾患別
		b 病期別
		c ライフステージ別
		d 褥瘡の予防と治療
e 喀痰等の吸引		
f フレイルの予防と対応		
2 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所状態	a 意識、覚醒
		b バイタルサイン
		c 栄養状態
		d 皮膚（褥瘡を含む）
		e 排尿、排便
		f 浮腫
		g 物理的手段（温熱療法を含む）
		B 呼吸、循環、代謝
	b 全身調整、全身持久力	
	C 摂食嚥下	
	D 運動	a ポジショニング
		b 関節運動、関節保護法
		c 神経・筋再教育
		d 筋力、筋持久力
		e 協調性
		f 巧緻性
		g バランス
		h 上肢の総合的機能
	E 感覚	a 表在感覚・知覚
		b 深部感覚・知覚
		c 複合感覚・知覚
		d その他（脳神経の感覚系を含む）
	F 痛み	a 急性痛
		b 慢性痛
	G 発達	a 姿勢・運動発達
		b 感覚・知覚・認知の発達
		c 心理・社会的発達
	H 高次脳機能	a 感情
		b 注意
		c 記憶
		d 認知
		e 行為
		f 言語
		g コミュニケーション
		h 遂行機能、前頭葉機能

IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目
2 心身機能、身体構造	I 精神・心理	a 治療的態度、関わり方
		b 時間、頻度
		c 集団
		d 場所
3 基本動作	A 姿勢保持	a 臥位・座位、立位
	B 床上動作	a 寝返り、起き上がり、移動
	C 移乗	
	D 歩行	a 筋力、支持性 b バランス c テンポ、リズム d 不整地歩行、応用歩行
4 活動、参加	A 日常生活活動〈ADL〉	a 起居、移乗、移動
		b 食事
		c 排泄
		d 更衣
		e 整容
		f 入浴
		g コミュニケーション
	B 手段的日常生活活動〈IADL〉	a 家事、金融機関、交通機関の利用等
	C 余暇活動、遊び	
	D 職業関連活動	
E 教育関連活動	a 就学前	
	b 就学支援	
F 参加	a 対人技能	
	b 集団技能、交流技能	
	c 役割	
	d 学校教育	
G 生活行為向上マネジメント	a 生活行為向上マネジメント〈MTDLP〉	
5 背景因子等	A 個人因子	a 生活時間
	B 環境因子	a 家族、家庭
		b 住環境
		c 地域環境
		d 職場環境
		e 学校教育
C QOL		

IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目	
6 義肢、装具、支援機器、 自助具等	A 義肢、装具	a 義肢（義手、義足）	
		b 装具（上肢、下肢、体幹）	
	B 支援機器、自助具等	a 車椅子、座位保持装置	
		b ベッド・寝具	
		c 移乗機器	
		d 歩行補助具	
		e ロボット・支援機器	
		f 自助具	
		g 日常生活用具	
7 疾患、障害	A 精神・心理	a 症状性を含む器質性精神障害	
		b 精神作用物質使用による精神および行動の障害	
		c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害	
		d 気分障害〈感情障害〉	
		e 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	
		f 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
		g 成人のパーソナリティ及び行動の障害	
		h 精神遅滞（知的障害）	
		i 心理的発達障害（限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害を含む）	
		j 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害を含む）	
		k てんかん	
		B 認知症	a 認知症（BPSDを含む）
		C 高次脳機能障害	a 感情
	b 注意		
	c 記憶		
	d 認知		
	e 行為		
	f 言語、コミュニケーション		
	g 遂行機能、前頭葉機能		
	D 骨関節	a 変形性関節症	
		b 骨折、脱臼、靭帯損傷	
		c 関節リウマチとその近縁疾患	
		d 外傷、障害	
		e 切断（先天奇形を含む）	
		f 骨形成不全	

IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目
7 疾患、障害	E 中枢神経	a 脳血管障害（片麻痺を含む）
		b Parkinson 病とその関連疾患
		c 脊髄小脳変性症〈SCD〉
		d 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
		e 多発性硬化症〈MS〉
		f 外傷性脳損傷〈TBI〉
		g 脊髄損傷（頸髄損傷を含む）
		h 心理的発達障害（限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害を含む）
	F 神経筋疾患	a 筋ジストロフィー
		b 多発性筋炎、皮膚筋炎
		c 重症筋無力症
		d ニューロパチー（Guillain-Barré 症候群を含む）
		e 末梢神経損傷（腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む）
	G 発達	a 脳性麻痺
		b 二分脊椎
		c 運動発達遅滞
		d 重症心身障害
		e Down 症候群
		f 精神・心理的発達障害（自閉症スペクトラム障害広汎性発達障害、注意欠如・多動性障害を含む）
	H 呼吸	a 病期
		b 間質性肺炎
		c 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉
		d 結核性肺炎
		e 外科術後
		f ICU 管理
		g 人工呼吸器管理状態
	I 循環	a 病期
		b 虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
		c 心不全（急性・慢性）
		d 末梢動脈疾患
		e 大動脈疾患、弁膜疾患
	J 代謝	a 病期
		b 糖尿病
		c 肥満
		d 慢性腎臓病
		e 慢性肝疾患
K 感覚器	a 視覚障害	
	b 聴覚・前庭障害	
L 廃用症候群	a サルコペニア、フレイル、ロコモティブ症候群	

IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目
7 疾患、障害	M がん等	a 病期
		b 周術期
		c リンパ浮腫
		d 骨転移
		e 緩和ケア
	N 熱傷	
8 保健、予防	O リエゾン精神医療	a リエゾン作業療法を含む
	P その他の疾患・障害	a 摂食嚥下障害、有痛性疾患等
		b 多疾患併存
8 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業作業療法	a 作業関連疾患、治療と仕事の両立支援

V 地域作業療法学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	A 基礎概念	a 地域とは
		b 地域における障害者（障害児を含む）・高齢者
	B 関連法規、制度	a 地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメント
		b 障害者基本法、障害者総合支援法
		c 精神保健福祉法、医療観察法
		d 社会福祉制度
		e 介護保険制度
		f 社会資源
		g 地域包括ケアシステム
		h 地域保健法
		i 学校教育法
		j 産業保健法
	C 地域リハビリテーション	a 歴史
		b 概念と動向
	D 地域作業療法	a 理念と目的
		b 多職種による連携
		c 訪問作業療法
		d 通所作業療法
		e 施設における作業療法
		f 生活スタイルの見直しと再構築
		g 趣味・生き甲斐活動の開発と獲得
		h 仲間づくり
		i 相談、指導
		j 家族関係の調整
		k QOL〈quality of life〉の維持・向上
	l 家族への介護指導	
	E 災害時の支援	
	F ノーマライゼーション	a バリアフリー
		b ユニバーサルデザイン
		c 合理的配慮
		d コミュニケーション
		e 移動
f 社会的環境整備の働きかけ		
G 健康維持、健康増進		
H 予防	a 疾病予防	
	b 再発予防	
	c 障害予防	
	d 重症化予防	

V 地域作業療法学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	I 義肢、装具、支援機器、 自助具等	a 義肢装具の適応と管理
		b 生活支援機器の適応と管理
		c 自助具の製作、適応と管理
		d 日常生活用具の適応と管理
		e 自立生活支援機器の適応と管理（環境制御装置を含む）
		f スポーツ・レクリエーション用具の適応と管理
		g IT・ICTの導入と展開
2 評価と支援	A 家庭生活支援	a 活動の維持、再構築
		b 介護指導
		c 障害児の子育て支援
	B 地域生活支援	a 生活の支援
		b 地域生活の支援
		c 小児通園施設生活の支援
	C 生活行為向上マネジメント	a 生活行為向上マネジメント〈MTDLP〉
	D 就園・就学支援	a 統合保育の支援
		b 特別支援教育の支援
		c 学校教育支援
	E 雇用・就労支援	a 就労移行支援
		b 就労継続支援
		c 就労準備支援
		d 就労定着支援
		e 一般就労支援
	F 環境整備	a 生活環境、就労環境
	G 福祉用具の適応	a 生活環境、就労環境
	H 施設入所者	a 廃用症候群
	I 在宅（訪問、通所）	b 脳血管障害
	J 生活期	c 骨関節疾患
	K 終末期（人生の最終段階）	H K に 共 通
e 呼吸障害		
f 循環障害		
g 悪性腫瘍		
h 代謝障害		
i 住環境		
j 生活状況、社会参加支援		
3 安全管理	A 感染予防・感染対策	
	B 急変時の対応	
	C 転倒予防	

VI 臨床実習

大項目	中項目	小項目	
1 実習前準備	A 医療倫理	a インフォームドコンセント	
	B 安全管理	a アクシデント、インシデント	
	C 感染予防・感染対策	a 標準予防策（手指衛生、咳エチケット等）	
		b マスク、防護服、手袋など	
		c 感染区域	
	D ハラスメント		
	E 作業療法における倫理	a 作業療法士の倫理（作業療法士の義務）	
	F 事故・過誤の対応		
	G 対人関係技法	a 接遇等	
	H 面接		
	I 評価・治療技術	a OSCE	
J 基本的作業療法技能			
2 医療提供施設実習実施内容	A 診療参加型実習	a 指導体制	
		b 能動的学習等	
	B 情報収集	a 他部門、診療録	
		C 医学的情報の理解	a 生化学検査
			b 生理検査
			c 画像検査
			d 医療機器
			e 手術記録
	f 服薬状況		
	D 検査、測定	a 作業療法の検査	
	E 全体像の把握		
	F 対応すべき生活機能と障害	a 肯定的側面	
		b 否定的側面	
G 目標の設定			
H 治療プログラム立案	a 立案、実施		
	b プログラム修正		
I 他部門・多職種との連携	a チーム医療		
	b 多職種連携		
J 記録、報告	a 専門用語		
	b 症例報告		
K 実習前・後評価	a 医療面接、実技、OSCE 等		
3 地域実習実施内容	A 情報収集		
	B 通所リハビリテーション		
	C 訪問リハビリテーション		
	D 行政機関		
	E 学校・放課後等デイサービス		
	F 福祉施設		

VI 臨床実習

大項目	中項目	小項目
4 実習後評価	A 実習実施内容	a 態度
		b 知識
		c 技能
		d 思考力・判断力・表現力
		e 主体性・多様性・協働性

索引

3
3次元動作解析 18

A
ADL . 6, 15, 20, 25, 35, 39, 45
AED 5
Arnold-Chiari 奇形 8

B
BPSD 41, 46

C
CBR 28
CBR (community based
rehabilitation) 12
Community Based Rehabilitation
..... 28
COPD 9, 22, 26, 42, 47
CRPS (complex regional pain
syndrome) 8
CT 18, 38

D
DNA 2
Down 症候群.. 8, 21, 26, 42, 47
DSM 34

E
EBM 11, 34

G
GMFCS 19
GMFM 19
gross motor function
classification system 19
gross motor function measure19

Guillain-Barré 症候群.. 21, 26,
42, 47

I

ICD 12, 14, 34
ICF..... 12, 14, 34
ICU 管理..... 42, 47
IL 12
independent living 12
International Classification of
Functioning, Disability and
Health..... 12, 14
International Statistical
Classification of Diseases
and Related Health Problems
..... 12, 14

J

JDDST-R 4, 19, 39

M

MRI 18, 38
MTDLP 35

N

Nagi モデル..... 14
Narrative Based Medicine11, 34
narrative based practice ... 14
NBM 11, 34
NBP 14
NCMRR (National Center for
Medical Rehabilitation
Research) 14

P

Parkinson 病. 8, 21, 25, 41, 47
PET 18, 38

Q

QOL 12, 16, 20, 25, 40, 45

R

Raynaud 症候群..... 22, 26, 42

S

SCD 8, 21, 25, 41, 47
SPECT 18, 38

T

TBI 8, 21, 25, 41, 47

X

X線..... 18, 38

あ

アクシデント 11, 30, 51
悪性腫瘍 8, 29, 50
遊び 39, 45
アレルギー 5
安全管理11, 17, 29, 30, 50, 51

い

胃液分泌 3
医学概論 5
医学的情報 5
医学的リハビリテーション ... 12
医学の歴史 5
意識 38
医事法規 11
移乗 15, 20, 24, 39, 45
移乗機器 20
胃大腸反射 3
痛み 15, 19, 24, 39, 44
一次・二次・三次医療 11
一次・二次・三次予防 11

遺伝 5
 遺伝子 2, 15
 遺伝子病 8
 移動（歩行を除く） 20, 24
 胃内消化 3
 医の倫理 5
 意欲 15
 医療 11, 14
 医療安全 36
 医療観察法 49
 医療広告ガイドライン ... 17, 36
 医療提供施設実習 30, 51
 医療統計 5, 14, 34
 医療の供給体制 11
 医療・福祉制度 11
 医療法 11
 医療保険制度 ... 11, 17, 34, 36
 医療面接 11, 30
 医療倫理 30, 51
 インシデント ... 11, 17, 30, 51
 インフォームドコンセント .. 11, 17, 30, 36, 51

う

うつ状態 9
 うつ病 7
 運動 3, 19, 24, 38, 44
 運動学 4
 運動学習 6, 15
 運動学習理論 15
 運動学的評価 18
 運動器の構造と機能 4
 運動失調 6
 運動障害 6
 運動制御 15
 運動制御と運動学習 4
 運動単位 3
 運動とエネルギー代謝 4
 運動と呼吸・循環 4
 運動ニューロン疾患 8
 運動の制御機構 15
 運動の中樞神経機構 4
 運動の発現機構 15
 運動発現 15
 運動発達 4, 19
 運動発達遅滞 42, 47
 運動麻痺 6

運動療法 23

え

栄養 7, 8, 9, 10, 15
 栄養管理 5
 栄養障害 6, 9
 栄養状態 18, 38
 栄養素 3, 15
 エネルギー供給 15
 エビデンス 14, 34
 演繹と帰納 5
 嚥下反射中枢 3
 炎症 5
 遠城寺式乳幼児分析的発達検査4, 19, 39

お

応用解剖 2
 応用動作練習 6

か

介護保険制度11, 17, 34, 36, 49
 介護予防 37
 外傷 8, 21, 25, 41, 46
 外傷性脳損傷 8, 21, 25, 41, 47
 改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査 4, 19, 39
 ガイドライン 5
 回復期 14, 34
 解剖学 2
 カウンセリング 7
 科学的検証 5
 科学的思考 5
 過誤 14
 下肢帯と下肢の運動 4
 ガス交換 3
 ガスの運搬 3
 画像検査 5
 画像診断 5
 画像評価 18, 38
 家族教室 12
 可塑性 2, 15
 肩関節疾患 7
 肩関節周囲炎 7, 21, 25
 片麻痺 21, 25, 41, 47

学校教育法 49
 学校保健 11, 28
 活動 5, 25, 39, 40, 45
 活動、参加 16, 20
 活動制限 6
 家庭生活支援 50
 カテーテル治療 5
 加齢 16
 がん 22, 27, 42, 48
 感覚 19, 24, 39, 44
 感覚器 2, 22, 26, 42, 47
 感覚、知覚 15
 感覚、認知 3
 がん関連障害 9
 環境 16
 環境因子 ... 5, 20, 25, 40, 45
 環境制御装置 6
 環境整備 50
 環境保健 11
 観察・定量評価 39
 間質性肺炎 .. 9, 22, 26, 42, 47
 患者教育 12
 患者・障害者心理 7
 患者・障害者の心理 12
 がん性疼痛 22, 27
 関節 2
 関節可動域 15, 19
 関節拘縮 6
 関節構造 15
 関節リウマチ 7, 21, 25, 41, 46
 感染 5
 感染・炎症性疾患 8
 感染症 9
 感染症対策 11
 感染対策 11, 17, 30
 感染予防 30
 感染予防・感染対策 50, 51
 肝臓 3
 感度 14, 34
 顔面・頭頸部の運動 4
 緩和 22, 42
 緩和ケア 9, 27, 28, 48

き

奇形 5
 義肢 20, 23, 40, 46, 50
 義肢・装具療法 6

器質性精神障害 7, 41, 46
 記述統計 34
 基礎理論 7
 気道内圧 3
 機能解剖 2, 4
 機能障害 6
 機能的帰結の予測 6
 気分 19
 気分障害〈感情障害〉 7, 41, 46
 基本動作 ... 15, 20, 24, 39, 45
 基本動作練習 6
 虐待 36
 嗅覚 3
 救急・災害・へき地医療 11
 吸収部位 3
 急性期 14, 34
 急性痛 22, 27
 救命救急 22, 26
 救命救急医療 5
 救命救急処置 5
 教育 17, 36
 教育学 36
 教育関連活動 40, 45
 教育的リハビリテーション ... 12
 狭心症 22, 26, 42, 47
 共生社会 5
 協調機能 19
 局所解剖 2
 局所状態 24, 44
 局所所見 18, 38
 虚血性心疾患 ... 22, 26, 42, 47
 虚弱 9
 虚弱予防 14
 記録 5
 筋 2
 筋萎縮 6
 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉 . 21,
 25, 41, 47
 筋活動 15
 筋機能 15, 19
 筋緊張 3, 19
 筋系 2
 筋ジストロフィー8, 21, 26, 42,
 47
 筋収縮 2, 15
 筋線維 2
 筋電図 18

筋電図検査 38
 筋力低下 6

く

クリティカルケア 22, 26
 クリニカルパス 12
 クリニカルリーズニング 34
 車椅子 6, 20

け

ケアプラン 31
 痙縮 6
 頸髄損傷 21, 41, 47
 系統疾患 7, 8
 外科術後 22, 26, 42, 47
 外科的治療 5
 血液 3
 血液凝固 3
 血液疾患 9
 血液腫瘍 9
 血液の細胞成分 3
 血液、免疫 3
 結核性肺炎 22, 26, 42, 47
 血管障害 8
 腱 2
 研究 14
 研究の方法 14
 研究の倫理 14
 限局性学習障害 .. 7, 41, 42, 47
 限局性学習障害、自閉症スペクト
 ラム障害 46
 健康維持 .. 14, 22, 27, 28, 34,
 43, 48, 49
 健康管理 11, 36
 健康増進 .. 11, 14, 22, 27, 28,
 34, 43, 48, 49
 健康と疾病の概念 5
 言語中枢 3
 言語聴覚療法 6
 言語、発声構音 3
 原始姿勢反射 4
 幻肢痛 8
 原始反射 19
 肩手症候群 8
 腱板損傷 7, 21, 25

こ

構音障害 6
 交感神経系 3
 高次脳機能 .. 2, 19, 24, 39, 44
 高次脳機能障害 . 6, 22, 27, 41,
 46
 公的扶助制度 11
 行動および情動の障害 7
 行動規範 36
 興奮と伝導 2
 絞扼性神経障害 8
 絞扼性末梢神経損傷 21, 26, 42,
 47
 高齢者保健 11
 誤嚥性肺炎 9
 ゴール設定 12
 呼吸 ... 3, 15, 22, 26, 42, 47
 呼吸運動 3, 4
 呼吸器 2
 呼吸器・胸郭内腫瘍 9
 呼吸器疾患 9
 呼吸機能 18, 38
 呼吸、循環、代謝18, 24, 38, 44
 呼吸障害 6, 29, 50
 呼吸中枢 3
 国際疾病分類 12, 14, 34
 国際生活機能分類 ... 12, 14, 34
 固縮 6
 個人因子 ... 5, 20, 25, 40, 45
 個人情報保護 11, 17, 30
 骨 2
 骨壊死性疾患 7, 21, 25
 骨格 2
 骨格系 2
 骨関節 21, 25, 41, 46
 骨関節疾患 50
 骨関節障害 7, 29
 骨吸収と骨形成 2
 骨形成不全 41, 46
 骨系統疾患 21, 26
 骨腫瘍 9
 骨髄移植 9
 骨折 7, 9, 21, 25, 41, 46
 骨粗鬆症 7, 9, 21, 25
 骨端症 7
 骨転移 22, 27, 42, 48
 骨軟部腫瘍 7, 21, 25

子どもの能力低下評価法〈PEDI〉
 4, 19, 39
 コミュニケーション 5, 16
 雇用・就労支援 50
 雇用・年金制度 17
 コンプライアンス 17, 36
 コンフリクトマネジメント17, 36

さ

再生医学 2
 再組織化 15
 再発予防 14
 細胞 2, 15
 細胞生理 2
 座位保持装置 6, 20
 作業関連疾患 ... 22, 27, 43, 48
 作業療法 6, 34, 35, 51
 作業療法学 35
 作業療法プログラム 44
 サルコペニア 9, 22, 27, 42, 47
 酸塩基平衡 3
 参加 5, 20, 25, 39, 40, 45
 参加制約 6
 産科・婦人科領域の疾患 . 22, 27
 産業作業療法 43, 48
 産業保健 11
 産業保健法 49
 産業理学療法 22, 27, 28
 三叉神経痛 8
 産前産後 22, 27
 酸素・エネルギー供給 18

し

死 2
 支援機器 ... 20, 23, 40, 46, 50
 視覚 3
 視覚器 2
 視覚障害 6, 22, 42, 47
 視覚・聴覚障害 8
 磁気刺激法 18
 糸球体・尿細管 3
 持久力低下 6
 事故・過誤の対応 30
 自己決定権 17, 36
 自己免疫疾患 9
 四肢と体幹の運動 4

視床痛 8
 自助具 20, 23, 40, 46, 50
 自助具・日常生活用具 20
 姿勢 4, 15, 19, 20, 39
 死生観 14, 34
 姿勢反射 19
 姿勢保持 24, 45
 疾患 .. 21, 22, 25, 26, 27, 41,
 42, 43, 46, 47, 48
 実験計画法 14
 実習前知識技能評価 30
 疾病 5
 疾病分類 5
 疾病予防 14
 児童・青年期心理 7
 児童福祉法 11
 児童向けウィスクラー知能検査
 〈WISC〉 39
 シナプス伝達 2
 自閉症スペクトラム障害 . 7, 41,
 42, 47
 自閉症スペクトラム障害広汎性発
 達障害 47
 社会参加支援 29, 50
 社会資源 49
 社会的責任 17, 30
 社会的リハビリテーション ... 12
 社会福祉制度 49
 社会保険制度 17, 36
 就園・就学支援 50
 住環境 29, 50
 周術期 22, 27, 42, 48
 重症化予防 14
 重症筋無力症 ... 21, 26, 42, 47
 重症心身障害 42, 47
 重症心身障害児 21, 26
 集中治療 22, 26
 終末期（人生の最終段階） .. 14,
 34, 50
 就労支援 29, 37
 就労支援・両立支援 12
 手術 5
 手段的日常生活活動〈IADL〉 . 6,
 15, 35, 39, 45
 ジュネーブ宣言 17, 36
 守秘義務 17, 36
 守秘義務・個人情報保護 36

腫瘍 5, 8
 受容器—感覚神経伝達 2
 循環 ... 3, 15, 22, 26, 42, 47
 循環器疾患 9
 循環機能 18, 38
 循環障害 5, 6, 29, 50
 障害 .. 21, 22, 25, 26, 27, 41,
 42, 43, 46, 47, 48
 障害者基本法 ... 14, 34, 36, 49
 障害者虐待防止法 34
 障害者権利条約 34
 障害者総合支援法 36, 49
 障害者の雇用の促進等に関する法
 律〈障害者雇用促進法〉 ... 11
 障害者の日常生活及び社会生活を
 総合的に支援するための法律
 〈障害者総合支援法〉 11, 14,
 34
 障害受容 12, 15
 障害・福祉サービス 36
 障害予防 14
 消化管・肝胆膵疾患 9
 消化器 2
 消化器腫瘍 9
 消化、吸収 15
 消化・吸収機能 18
 消化酵素 3
 消化、代謝、体内動態 15
 条件付け 15
 上肢帯と上肢の運動 4
 床上動作 ... 15, 20, 24, 39, 45
 情緒、心理 15
 小児期 4
 小児期および青年期に通常発症す
 る行動および情動の障害41, 46
 小児の障害 8
 情報管理 30, 36
 情報セキュリティ 17
 静脈系 2
 静脈・リンパ管疾患 9
 職業関連活動 40, 45
 職業的リハビリテーション ... 12
 職業倫理 17
 褥瘡 22, 27, 38
 職場管理 36
 女性器の腫瘍 9
 ショック 5

自立支援	12
自律神経	3, 15
自立生活 (independent living、IL)	28
腎機能	18
心筋	3
心筋梗塞	22, 26, 42, 47
神経	2
神経筋疾患	21, 26, 42, 47
神経-筋接合部の伝達	2
神経系	2
神経障害	29, 50
神経症性障害	7, 41, 46
神経生理学的評価	18, 38
神経線維	2
神経伝導検査	18
神経伝導速度検査	38
神経ブロック	6
人工関節置換術後	7, 21, 25
人工呼吸器	22, 26
人工呼吸器管理状態	22, 26, 42, 47
進行性・退行性病変	5
人事考課	17
侵襲的治療	5
心身機能	5, 18, 19, 24, 38, 39, 44, 45
人生の最終段階	28
新生物	5
心臓	2
心臓疾患	9
心臓の刺激伝導系	3
心臓拍動の自動性と心拍出量	3
靭帯	2
身体計測	19
身体構造	5, 18, 19, 24, 38, 39, 44, 45
身体拘束	36
身体障害者福祉法	11
身体所見	5
靭帯損傷	7, 21, 25, 41, 46
身体的要因に関連した行動症候群	41
身体表現性障害	7, 41, 46
心電図	18, 38
心肺蘇生法	5
腎、排尿	3

新版K式発達検査	39
腎・泌尿器疾患	9
深部感覚	3
深部静脈血栓症	22, 26, 42
心不全	22, 26, 42, 47
信頼性	14, 34
心理教育	12
心理・社会的発達	19
心理社会的発達	4
心理的アプローチ	6
心理的発達の障害	7, 41, 46, 47
診療ガイドライン	14, 23, 34, 44
診療記録	17
診療報酬	17, 36
心理療法	7

す

随意運動	3, 15
遂行機能	41
推奨グレード	14, 34
脾臓	3
推測統計	14, 34
水頭症	8
髄膜炎	8
睡眠	38
推論	5
ストレス	5
ストレス関連障害	7, 41, 46
スポーツ外傷	7
スポーツ外傷・障害	21, 25
スポーツ障害	7

せ

生化学	3
生化学検査	5
生活期	14, 34, 50
生活行為向上マネジメント	35, 40, 45, 49, 50
生活状況	29, 50
生産的活動	35
生殖	4
生殖器	2
生殖器疾患	9
成人期	4
成人・高齢者心理	7
精神作用物質	7

精神作用物質使用による精神および行動の障害	41, 46
精神疾患	22, 27
精神障害	7
精神・心理	39, 41, 45, 46
精神・心理障害	6
精神・心理的発達の障害	42, 47
精神遅滞	7, 41, 46
精神・認知障害	29
成人のパーソナリティ及び行動の障害	41, 46
精神発達	4
精神保健	11
精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (精神保健福祉法)	11
精神保健福祉法	49
生体反応	5
青年期	4
生命・医療倫理	14
生命倫理	5
生理	5
生理学	2, 3, 4
生理検査	5
生理的障害	41
生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	7, 46
脊髄炎	8
脊髄小脳変性症	8, 21, 25, 41, 47
脊髄損傷	8, 21, 41, 47
脊髄損傷 (頸髄損傷を含む)	25
脊椎疾患	7, 21, 25
脊椎症	7
セクシャルハラスメント	17
摂取基準	15
摂食嚥下	18, 24, 38, 44
摂食嚥下障害	6, 9, 22, 27, 43, 48
摂食機能療法	6
摂食行動	15, 38
摂食障害	7
切断	7, 21, 25, 41, 46
説明と同意	17, 36
染色体異常	8
全身持久力	18, 38
全身状態	18, 24, 38, 44
先天異常	7

先天奇形 . 7, 8, 21, 25, 41, 46
 先天性異常 21, 25
 先天性神経筋疾患 21, 26
 蠕動運動 3
 前頭葉機能 41
 せん妄 9
 線溶現象 3

そ

躁うつ病 7
 臓器移植後 9
 装具 20, 23, 40, 46, 50
 総合リハビリテーション 12
 早産児 21, 26
 組織 2, 15
 組織マネジメント 36
 咀嚼・嚥下運動 3
 咀嚼・嚥下、消化、吸収 3
 粗大運動能力尺度 19
 粗大運動能力分類システム 19
 卒後教育 36

た

ターミナルケア 9
 体温調節 3
 体温調節中枢 3
 体幹の運動 4
 代謝 15, 22, 26, 42, 47
 代謝機能 18, 38
 代謝障害 29, 50
 代謝・内分泌障害 6
 代謝率 3
 帯状疱疹 8
 対人関係技法 30
 体性感覚 3, 19, 39
 胎生期 4
 大腿骨頭壊死 7, 21, 25
 大動脈疾患 22, 26, 42, 47
 体表解剖 2
 唾液 3
 多疾患併存 22, 27, 43, 48
 多職種連携 11, 12, 17, 30
 脱臼 7, 21, 25, 41, 46
 妥当性 14, 34
 多発性筋炎 21, 26, 42, 47

多発性硬化症〈MS〉 . 8, 21, 25, 41, 47
 多発性ニューロパチー 8
 多様性社会 5, 14
 断層解剖 2
 胆嚢 3

ち

地域医療 11
 地域医療構想 28
 地域作業療法 49
 地域社会 5, 14
 地域生活支援 50
 地域包括ケアシステム . . 12, 28, 34, 49
 地域保健 11
 地域保健法 11, 49
 地域理学療法 28, 30
 地域リハビリテーション 12, 28, 49
 チームアプローチ 12
 チーム医療 11, 30
 知覚 19
 知的障害 7, 41, 46
 知的障害者福祉法 11
 注意欠如・多動性障害 7, 41, 42, 46, 47
 中枢神経 2, 21, 25, 41, 47
 中枢神経系 2, 15
 中枢神経の障害 8
 超音波エコー 18, 38
 聴覚 3
 聴覚障害 6
 聴覚・前庭障害 22, 42, 47
 腸内消化吸収 3
 治療と仕事の両立支援 . . 22, 27, 43, 48
 治療プログラム 23, 30, 44

つ

椎間板ヘルニア 7
 通所リハビリテーション 31
 杖 6

て

転移 7
 転移性腫瘍 9
 てんかん 7, 8, 41, 46
 転倒予防 11, 30, 50

と

頭蓋内出血 8
 頭頸部腫瘍 9
 統合失調症 7, 41, 46
 統合失調症様障害 7, 41, 46
 動作解析 4
 動作障害 15
 動作の障害 6
 糖・蛋白・脂質代謝 3
 疼痛 6
 糖尿病 9, 22, 26, 42, 47
 動脈 2
 動脈系 2
 特異的発達障害 42
 特異度 14, 34
 特殊感覚 19, 39

な

内臓感覚 3
 内臓諸器官 2
 内部障害 9
 内分泌、栄養、代謝 3
 内分泌機能 18
 内分泌腺 2
 内分泌・代謝疾患 9

に

日常生活活動 6, 15, 20, 25, 35, 39, 45
 二分脊椎 8, 21, 26, 42, 47
 日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査〈JMAP〉 39
 ニューロパチー . 21, 26, 42, 47
 尿 3
 人間関係 5
 人間関係論 14
 人間発達学 4
 認知 15, 19
 認知機能 3

認知症8, 9, 19, 22, 27, 41, 46
認知障害 22, 27

ね

熱傷 10, 22, 27, 43, 48
熱の産生と放出 3

の

脳炎 8
脳血管障害 21, 25, 29, 41, 47,
50
脳梗塞 8
脳腫瘍 9, 21, 25, 41
脳神経 19
脳神経 (感覚系) 39
脳性麻痺 8, 21, 26, 42, 47
ノーマライゼーション .. 14, 28,
34, 49
ノーマライゼーション・自立生活
..... 12

は

パーソナリティ及び行動の障害 7
バイオフィードバック療法 6
背景因子 5, 20, 25, 40, 45
排泄障害 22, 27
バイタルサイン 18, 38
排尿機構 3
排尿障害 6
排尿中枢 3
排尿、排便 18, 38
肺の容積変化 3
排便 3
排便障害 6
廃用症候群 . 6, 22, 26, 29, 42,
47, 50
発声器官 3
発達4, 15, 19, 21, 24, 26, 39,
42, 44, 47
発達課題 4
発達障害 6, 29
発達障害者支援法 11
発達心理 7
発達性協調運動障害 21, 26
発達段階 4

発達評価 4
発達理論 4
ハラスメント 17, 36, 51
パラメータ (時間因子、距離因
子) 15
バランス 19
バリアフリー 28
パワーハラスメント 17
反射 2, 19

ひ

非器質性睡眠障害 7
ビタミン 3
ヒト免疫不全ウイルス (HIV) に
よる神経障害 8
泌尿器 2
皮膚 18, 38
皮膚筋炎 21, 26, 42, 47
皮膚受容器 2
皮膚障害 22, 27
肥満 22, 26, 42, 47
病因論 5
評価会議 (カンファレンス) . 12
病期 .. 21, 22, 25, 26, 27, 41,
42, 47, 48
表在感覚 3
標準予防策 30, 51
病理 5
病理学概論 5
病理学的変化 5
疲労 15

ふ

フィードバック 15
副交感神経系 3
福祉 14
福祉関係法規 11
福祉用具 20, 28
浮腫 18, 38
物理療法 23
不動 6
フレイル 9, 22, 27, 42, 47
プロフェッショナルリズム 14, 17,
31, 34, 36

へ

平衡覚 3
平衡機能 19
平衡聴覚器 2
米国精神医学会精神疾患診断分類
..... 34
閉塞性動脈硬化症 ... 22, 26, 42
ペルテス病 21, 26
変形性関節症 7, 21, 25, 41, 46
変性ならびに脱髄疾患 8
弁膜疾患 22, 26, 42, 47

ほ

防衛機制 7
訪問リハビリテーション 31
法令遵守 17, 36
保健 ... 11, 14, 22, 27, 43, 48
保健医療福祉 11
保健衛生法規 11
保健予防の概念 11
歩行 4, 15, 20, 24, 39, 45
歩行周期 15
歩行補助具 20
母子保健 11, 28
ボツリヌス療法 6
ホメオスターシス 5
ホルモン 3

ま

末梢循環障害 9
末梢神経 2
末梢神経・筋疾患 8
末梢神経・筋の障害 8
末梢神経系 2, 15
末梢神経損傷 ... 21, 26, 42, 47
末梢動脈疾患 9, 22, 26, 42, 47
慢性肝疾患 47
慢性腎臓病 .. 9, 22, 26, 42, 47
慢性痛 22, 27
慢性疼痛 8
慢性閉塞性肺疾患9, 22, 26, 42,
47
慢性腰痛 8

み

味覚 3
看取り 14, 34
脈管系 2

め

免疫 5
免疫機能 3
免疫不全 9

も

妄想性障害 7, 41, 46
モニタリング 22, 26
物語りに基づいた実践 14
問診 5

や

薬剤 7, 8, 9, 10
薬物療法 5, 15
薬理 5, 15

ゆ

有害反応 15
有痛性疾患 43, 48
有痛性疾患・障害 22, 27
尤度比 14, 34
誘発電位 18
床反力分析 18
ユニバーサルデザイン ... 28, 34

よ

養成教育 36
腰痛症 7, 21, 25
余暇活動 39, 45
余暇活動・遊び 35
予防 .. 14, 22, 27, 28, 34, 43,
48, 49

ら

ライフサイクル 15

り

リエゾン作業療法 43, 48
リエゾン精神医療 43, 48
利害衝突 17, 36
理学療法 6, 14, 15
理学療法学 15, 16
理学療法士及び作業療法士法 11,
14, 34
理学療法における倫理 30
理学療法プログラム 23
力学 4
力学的因子 15
リスク管理 6, 23, 44
リスクマネジメント 17
リスボン宣言 17, 36
リハビリテーション 6
リハビリテーション医学 ... 5, 6
リハビリテーション医療 12
リハビリテーション概論 12
リハビリテーション機器 6
リハビリテーション計画 6

リハビリテーション治療6, 7, 8,
9, 10
リハビリテーションプログラム12
リハビリテーションプログラムの
立案 6
臨床医学 7, 8, 9, 10
臨床医学総論 5
臨床意思決定 5
臨床疫学 5
臨床心理 7
臨床心理学 7
臨床心理検査法 7
臨床推論 18
リンパ系 2
リンパ浮腫 22, 27, 42, 48
リンパ浮腫治療 9
倫理要綱 17, 36

れ

歴史 5, 7

ろ

老化 2, 4
老人福祉法 11
労働衛生管理 17
老年期 4
老年期障害 9
老年症候群 9
労務管理 17
ロコモティブ症候群 47

わ

腕神経叢損傷 ... 21, 26, 42, 47